



▲漁船パレードで祭りの幕開け



▲勇壮な姿でこぐ『ペロン大会』

口之津 南島原市の海まつり
マリノフェスタinくちのつ2006

7月15日(土)、16日(日)、口之津町で「海の日」を祝い「マリノフェスタinくちのつ」が開催されました。開会セレモニーの漁船パレードでは、恒例の蛸投げが行われ岸壁に集まった人たちは船上の漁師さんに向かって大きな声で呼びかけていました。

振興委員会会長の園田清八郎さんは開会宣言の中で「海と共に暮らしてきた口之津の方たちにとって、毎年行われてきたこの祭りは大変大切な行事です。たくさんの団体の方のご協力によって、今回も(祭りを)開くことができ、心からお礼を申し上げます。この祭りが末永く続き、また、夏の暑い盛りに開催できることを本当に嬉しく思います」と開催の喜びを述べました。両日とも晴天に恵まれ、初日の15日は、郷土芸能やライブ演奏などが披露され、16日に行われたペロン大会では、各出場チームが、それぞれの団結の心で競い合いました。祭りの最後を飾った花火大会は一層多くの来場者で賑わい、夜空と海面に散る花火の美しさを楽しみました。

布津 いつでも活躍お母さん
布津町交通安全母の会研修会

7月14日(金)、布津多目的施設で布津町交通安全母の会研修会が開催され、救急救命法および防犯について研修会を行いました。この講習会は布津町交通安全母の会の要請で毎年行われており、今年も子どもをもつお母さんが受講しました。

まず、救急救命法について、「万が一の事故や大けがの時にまず大切なのが、早い通報と応急手当」ということから、その必要性を十分理解し、緊急救命時に適切に対応できるように、南島原消防署布津分署職員指導のもと、救急救命法の講習を受けました。

また、防犯講習会については、南島原警察署生活安全課から講師を招き、島原半島の犯罪の現状と子供たちに対する防犯対策について、講習しました。

誘拐など子どもが被害にあう犯罪が増加するなか、布津町交通安全母の会では、防犯に対する講習を受け、子供たちを犯罪から守る知識と心構えができたのではないのでしょうか。



▲心臓マッサージは大切な応急手当です



▲真剣に受講するお母さんたち

北有馬 地域で「食育」を進めよう！
地元生産者招待給食会

6月8日から7月13日まで、有馬小学校および北有馬中学校において、給食に使用される食材の地元農産物生産者の皆さんを学校へ招待し、いっしょに『食』について考え、子どもたちと給食を楽しみました。

これは、最近※『食育』という言葉に表されるように、子どもたちに家庭や給食での食事の中で、ひとつひとつの食べ物に対する知識を深め、食べ物への感謝、そしてそれらを生産している方々への感謝の気持ちを身につけさせることを目的として実施されました。

7月12日(水)のこの日は、じゃがいも生産者の井村利光さん(北有馬町丁)が招待されました。井村さんは給食の前に、いろんな種類のじゃがいもを紹介したり、生産工程の話などを子どもたちにしました。そして「自分たち生産者の顔が見えることで、より安心感ができるとおもいます。気象状況や病気などの難しい問題もありますが、がんばって作っていきます」と生産者の意気込みを話されました。

※『食育』とは心身の健康の基本となる、食生活に関するさまざまな教育を行うこと。



▲みんなで食べるとおいしいね



▲いろんな種類のじゃがいもがあります



▲役員皆さんの(薄田会長:右)



▲青少年育成市民議会議員の皆さん

市全体 地域みんなで見守ります
南島原市青少年育成市民会議

7月13日(木)、南有馬庁舎で南島原市青少年育成市民会議の設立総会が開催されました。この会は市内各地区青少年健全育成協議会の連絡調整と活動内容の充実を図り、青少年の健全育成活動の増進を目的とし設立されたもので、市長をはじめ議長、南島原警察署長の皆さんを顧問としてむかえ、各種関係団体や各地区の青少年健全育成協議会会員により構成されます。

設立総会では、規約や事業計画などが審議・議決され、平成18年度からの新しい事業がスタートしました。

役員選出では、薄田藤和さん(深江町)が初代会長として選出され、副会長や運営委員もあわせて選出されました。薄田会長は、昭和47年の地元青少年健全育成協議会発足当初から現在まで34年間活動されており、最近でも午後3時からはいつもパトロールに出かけられているそうです。「子どもから元気もらっています」と言われる会長は、「今後も“知恵”と“汗”をだしてがんばります」と決意を述べられました。